

実践概要

宮 城 野 小 学 校

1 教科担任制に対する基本的な考え

(1) 本校の教科担任制の特色

- ・基礎教科である算数において、教科担任が担当するだけでなく、複数の教師が指導にあたる。
- ・特別支援教育と関連させて、下位層の学力向上を図る。

(2) 学力向上の面から

・教師の専門性

⇒各教師の専門性を生かせる教科を考慮しながら、担当教科を決定する。

- ・少人数指導、TTと教科担任制を組み合わせる算数の学力向上を図る。
- ・特別支援教育と関連させ、配慮を必要としている児童について個別指導を行う。
- ・教材研究の時間を確保して、十分に授業の組立てが行えるようにする。

(3) 生徒指導上の面から

- ・複数の教師の目で児童の様子を見ることで、児童たちの良いところを見つける。

(4) 中学校への円滑な橋渡しの面から

- ・教科担任制に慣れておくことで、中学校への授業にスムーズに移行できるのではないかと考える。

(5) 教師の意識改革の面から

- ・1単位時間45分を大切に意識をもつ。
- ・チームで、生徒指導上の課題に取り組む。
- ・担当教科について十分な教材研究を行う。

2 実施上の留意点

(1) 教職員や保護者、児童への共通理解

- ・授業参観・懇談・PTA総会において資料を使用して説明した。
- ・半日授業参観で教科担任による授業の様子を公開した。
- ・保護者対象にアンケートを実施し、結果を知らせた。

(2) 教師の専門性や得意分野を生かすための工夫

- ・高学年部会を開き、専門教科を生かすことができるように考えながら教科の担任を決定した。

(3) 時間割の作成

- ・高学年すべての時間割を作成する。
- ・空き時間の一覧も作成する。

(4) 高学年教科担任部会

- ・月1回に定期的に関き、調整および確認を行う。
- ・日常的に、ミニ部会を開き、調整を行う。

(5) 週1回学年会で調整

- ・木曜日の放課後に学年会を開き、学年内で調整を行う。

(6) 特別支援教育への対応

- ・空き時間を活用して特別支援教育としての取り出し指導にも対応する。

(7) 児童の意識調査

- ・教科担任制について高学年の児童に感想をとり、今後を生かす。

(8) 学校行事(運動会・学習発表会・市小体)での練習時間への対応

- ・きめ細かい打合せを行い、1週間ごとに臨時の時間割を作成していく。

(9) 時数管理

- ・フリーの時数管理ソフトを使用して時数を管理する。

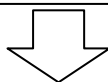
(10) 3年目をスタートさせるにあたって

Ⅲ モデル校の取組 3 宮城野小学校

平成20年度の高学年部の職員の半数が入れ替わったこともあり、教科担任制のねらいや具体的な内容を共通理解するための教科担任制部会を4月2日に実施した。そこで、これまでの成果と課題について確認し、今年度の体制や今後の部会の持ち方などの方向性を決めた。

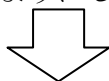
平成19年度までの主な成果と課題

- 担当教師の意識の変化
 - ・ 「学級担任」より「学年担任」という意識が強くなり、担当者間の情報交換が活発に行われ、授業や生徒指導にも生かされた。
 - ・ 担当教科に集中することができ、教材研究や授業計画の立案をきめ細かく行うことができた。
- 授業の変化
 - ・ 最初のクラスでの児童の反応や理解の程度を見て、授業を改善し、理解を深めることができた。
 - ・ 教科担任による専門的な知識を生かした説明や、分かりやすい教材や教具を工夫などで、児童の興味・関心を高めることができた。
 - ・ 特に算数では、教科担任が計画したプログラムで少人数指導や個別指導など様々な形態で指導し、成果を上げた。
- ▼ 担任が算数に関われないことで、家庭学習や朝のスキルタイム、放課後の個別指導に授業の成果を生かした指導が難しい。
- ▼ 学級担任が基礎教科を担当している関係で、他の教科もほぼすべて教科担任にしなければならず、時間割の調整が複雑で困難な場面も多かった。また、担当教科によって空き時間がほとんどとれなかった教師もいた。
- ▼ 上位群・下位群にはどの教師も目が届きやすく情報交換も活発に行われるが、中位群の子どもに対しての情報が少なくなりがちだった。目立たない児童にいかに目を向け、育てていくかは見過ごせない課題ととらえた。
- ▼ 学級で担任が早急に対応しなければならない問題が生じたときの対応が難しい。多くの教師がその後の指導に関われるメリットはあるが、即効性に弱い。



より取り組みやすい体制づくりを目指して検討したこと

- ① 学級担任が自分の学級に関わる時間を増やす工夫ができないか。
- ② 基礎教科の指導に学級担任が関わり、スキルタイムや家庭学習・個別指導の時間と効果的に結びつけ、成果を上げられないか。
- ③ 時間割の組み方をもう少し単純にし、時間割の変更に柔軟に対応できるようにならないか。
- ④ 空き時間を確保し、教材研究等にあてられないか。特に6学年主任の空き時間を多めに確保し、全体に関わる仕事に当てるようにしたい。



時間割づくりに生かしたこと

- ・ 1時間目は極力学級担任の授業にあてる。
- ・ 交換授業を柱にした時間割にする。
- ・ 算数は教科担任と学級担任がペアを組んで指導できるようにする。
- ・ 学年合同での取り組みが多い体育は、学級担任が担当する。
- ・ 少人数指導が可能な教室を確保する。

3 教科担任制のよさを生かした指導例

(1) 各教科の特性を生かした指導例

総合的な学習・国際理解

① 指導形態

総合的な学習の中で、国際理解を教科担任が、その他の領域・活動を学級担任が指導していた。5・6年生とも英語活動を中心に、5年生では年間25時間、6年生では年間10時間実施していた。以下の実践例は、教科担任が指導計画を立て、学級担任と協力して指導したものである。

(ア) 単元名 「世界の民族衣装を知ろう」

(イ) 本時のねらい

- 外国の国々に伝わる民族衣装について知り、文化の多様性について考えるきっかけをもつ。

時間配分	学 習 活 動	指 導 者 側 の 留 意 点
10:40	1, 本時について確認する。	○子どもたちはサンホールに集合し、今日の学習について確認し合います。 ○先生方を各学級担任が迎えに上がります。校長室でお待ち下さい。(10:40頃) ○10:50頃に子どもたちが教室(4F)に戻ってきます。お国の言葉で迎えてやってください。
10:50～ 11:10 11:10～ 11:30 11:30～ 11:50	2, SIRAの先生方の話を聞き、民族衣装と文化について知る。 ①第一回目 1組 M・Fネさん 2組 P・Gさん 3組 B・Rさん ②第二回目 1組 B・Rさん 2組 M・Fさん 3組 P・Gさん ③第三回目 1組 P・Gさん 2組 B・Rさん 3組 M・Fさん	○20分ずつの時間で3クラスをローテーションします。話自体は15分ほどで、残りの5分は子どもたちとの交流(質問など)に当ててくださいっても結構です。 ○お話の内容は ・名前と表記/あいさつ(こんにちは/さようなら)/来日の経緯など ・民族衣装について・・・名称や歴史、どんなときに着るのか、どうやって作るのか、どうやって着るのか。衣装にまつわる思い出等。上着や靴など、どうやって着用するののできる範囲で実演するなど。子どもに着せてみせても面白いです。 ○お国の基本情報については、事前学習で学んでおきます。地理上の位置/人口/面積/民族/言語/宗教など。 ○同じ話を3回することになりますが、クラスそれぞれの反応の違いをお楽しみ下さい。 ○クラスには担任がつきます。サンホールでは土屋がリードします。
11:55～ 12:05	3, 本時のまとめをする。 ・三人の先生方のお話を聞く ・三人の先生方にメッセージを書く ・本時の感想を書く	○子どもたち全体が集合できるサンホール(3F)に移動します。お三方に並んで頂き、子どもたちには改めて文化の多様性を心に刻ませたいと考えています。 ○子どもたち全体の前で、今日の感想や仙台の子どもたちに伝えたいことなどを3分間ほどお話し下さい。 ○最後は、日本の挨拶でお別れしたいと思います。「さようなら またどこかでお会いしましょう」

Ⅲ モデル校の取組 3 宮城野小学校

② 成果と課題

【成果】

- ・ 20分ずつローテーションで3人のコミュニティーゲストと教室で濃密な時間を過ごし、子どもたちの心に文化の多様性や外国に対する興味・感心を強く印象づけることができた。

【課題】

- ・ インターネットや図書などを効果的に活用させ、自発的な調べ学習をさせたいと考えたが、事前・事後学習で十分な時間を確保するのが難しく、学級担任との調整が必要だった。

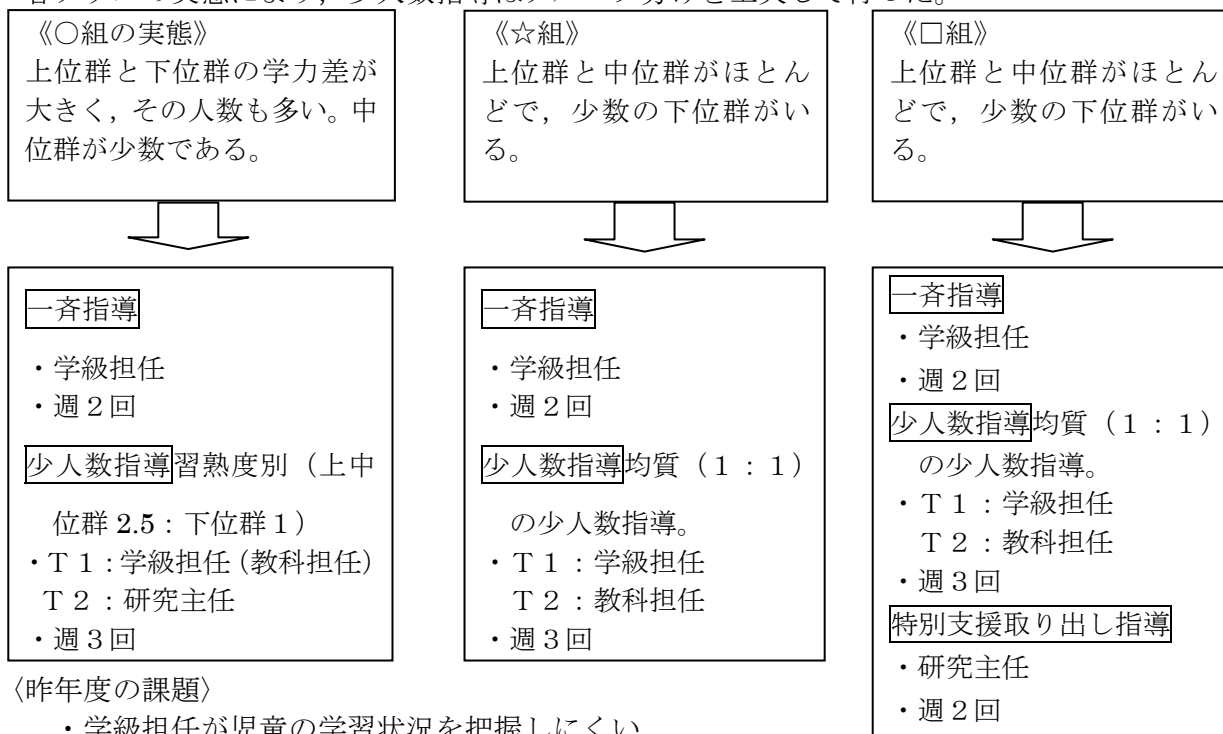
(2) 「授業の質」を高めた具体的な指導場面

6年生 算数 『分数のかけ算とわり算』の指導 ～教科担任と少人数指導の成果と課題～

① 指導形態

昨年度までの実践を踏まえ、時間割を工夫し、週5時間ある算数のうち3時間は学級担任（T1）と教科担任（T2）でペアを組んで指導できるようにし、少人数指導のための教室も確保した。

各クラスの実態により、少人数指導はグループ分けを工夫して行った。



〈昨年度の課題〉

- ・学級担任が児童の学習状況を把握しにくい。
- ・スキルタイムの課題や宿題、個別指導などを関連づけて指導を徹底できない。
- ・欠席した場合のフォローがしにくい。

② 指導方法

- ・レディネステストの結果を踏まえ、児童の希望を反映しながら少人数のグループ分けを行う。
- ・導入部分と、単元のまとめ、ワークテストは、一斉指導で行う。
- ・計算および文章問題は少人数で行う。
- ・できるだけ多くの練習問題に取り組ませる。
- ・既習内容を使って新しい解き方を考えさせたり、複数の解き方のある問題に取り組ませたりしながら、児童が驚きや新しい発見ができるようにする。
- ・欠席児童や配慮を要する児童については、朝の「宮城野タイム」で、既習事項の復習や補習を行う。（研究主任が担当）

③ 「分数のかけ算とわり算」の実践を通して

【成果】

- ・児童一人一人の取り組みを、その場で教師がチェックできるため、児童の小さなきつまずきが見つけやすく、また、そのフォローもすぐできるようになった。
- ・学級担任全てが算数を担当するようになったため、昨年と比べて児童理解もよくできるようになった。また、宿題やスキルタイム、個別指導の時間と関連付けて指導することができ、理解を深めることができた。
- ・学級担任がT1をすることで、少人数指導ができないときでも学習が途切れることなく、一貫した指導ができる。時間割の変更も柔軟にできるので時数の確保もできる。
- ・週3回の少人数指導で、児童が周りを気にせずに進んで自分の考えを発表したり、わからないことをためらわずに質問したりするようになった。他の学習にもよい影響が出ている。
- ・児童一人一人の発言する回数が増え、人前で発表する力が身に付いてきた。
- ・文章問題では、自ら数直線を書いたり、関係式を用いたりして解答を導き出そうとする児童が増えた。
- ・一斉指導で行った既習事項を用いて、未習の分数×分数や分数÷分数の計算方法を考える授業では、活発に意見交換がなされ、筋道を立てて解いたり、説明したりする力が高まった。
- ・ワークテストの平均点数が全クラス87点以上で、特に下位群の成績が向上し、上位との差が縮んだ。(2極化の解消)
- ・苦手意識を持っていた児童に自信が付き、授業に意欲が感じられるようになった。
- ・アンケート結果をみると、特に下位群の児童及び保護者から好評を得ていることがわかった。

【児童アンケート】

- 少人数の方がわかりやすく、絶対いい。理由は、
 - ・たくさん質問できる。 ・リラックスして勉強できる。
 - ・手を挙げて大勢だとあてられないことが多いけど、少人数だとたくさんあててもらえる。 ・集中できる。 ・楽しい。
 - ・一人ずつ、しっかり話せる。 ・遅くても自分のペースでできる。
 - ・発表のときも緊張しないし、間違えてやり直しても平気。
 - ・わかるまで教えてもらえる。

【保護者アンケート】

- ・少人数指導については、子どもも質問しやすい等、とても利点があり感謝しています。
- ・少人数指導では、根気よくわかるまで指導していただき、学習意欲も少しずつ向上しています。算数以外の教科にも意欲が出てきました。
- ・学習意欲が向上し、授業がわかるようになったと子どもから聞いております。

【課題】

今後は、上位群の意欲と学力をさらに向上させる取り組みをいかに工夫していくかが課題と思われる。

4 実践のまとめ

(1)成果と課題

【成果⇒○ 課題⇒●】

	○成果	●課題
学力向上	○基礎教科は担任がT1を務めることで、スキルや宿題・家庭学習、個別指導とも関連づけることで効果を上げることができた。 ○算数は担任がT1、教科担任がT2を務めることが学力向上・児童理解の面からも有効だった。 ○空き時間を少人数指導や個別指導にあてたことで、特に下位群の学力、学習に対する意欲が向上した。	

Ⅲ モデル校の取組 3 宮城野小学校

	<ul style="list-style-type: none"> ●基礎教科の教科担任制には反するが、学級担任が基礎教科をもつことで、自分の学級にいられる時間が増え、朝の慌ただしさも解消され、児童理解も深まった。 ●必ずしも専門性を生かせるわけではない。教師の得意分野を生かせるのであれば、技能教科や外国語などの指導で効果が期待できる。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○複数の教師が児童を理解することのメリットがある。 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の問題を担任ひとりが抱え込まないで協力して指導にあたることができる。 ・子どもの立場からすると、担任以外にも話ができる教師がいるということが、問題行動を未然に防ぐのにつながることもある。 ●学級担任が、学級の子どもの理解、レポートづくりに時間がかかり、学級づくりで不安を残す。 ●早急な対応が必要な問題に臨機応変に対応することが難しい。
中学校への円滑な橋渡し	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケート結果からは、教科担任制を実施していない学校の卒業生と大きな変化はなかったが、中学校の教師の目には円滑であったことがわかった。 ●中学校との連携を深めることで、対応は可能ではないかと考える。
教師の意識改革	<ul style="list-style-type: none"> ○「学年担任」という意識をもち、時間割の変更や指導形態・方法の工夫、生徒指導等にチームで柔軟に対応できれば、さまざまな効果が期待できる。 ●学年担任という意識を全職員がもつことは難しい。教科担任制を経験した教師と、未経験の教師との間に意識のずれが生じることは避けられず、学年・学年部のチームづくりは年々厳しくなっていくことが予想される。 ●低・中学年部の担当教師の理解と協力が必要。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○時間割については、3コマ分の交換授業で可能な範囲にとどめたことで、昨年度までよりは運用しやすくなった。 ○学級担任が不在の場合でも、自習ではなく授業を進めることができる。児童を知っている教科担任が指導にあたるので安全管理の面でもよい。 ●時間割の調整や特別教室の使用割り当て、進度の確認などコーディネーターの役割を果たす学年主任・教科担任担当が必要である。 ●保護者に対する説明責任をどのように果たすか。教科担任制に対する期待が大きい一方で、学級担任とのかかわりの少なさに不安を感じている保護者も多い。教科担任制を続ける、やめる、いずれにしても十分な説明が必要となる。 ●学級担任以外の教師が何人かかわれるのかで、教科担任制の取り組み方も大きく変わってくる。

(2)まとめ

2年間の成果と課題を受けて今年度工夫をして取り組んだ点については、ある程度成果を上げることができた。しかし、3年目だからこそ見えてきた課題もある。学力向上の一面だけではなく子どもの全体像を見ることを大事に、また、高学年だけでなく教師全員の取り組みとして考え、教科担任制への保護者の思いを大切にしながら今後の取り組みを考えていきたい。

資料

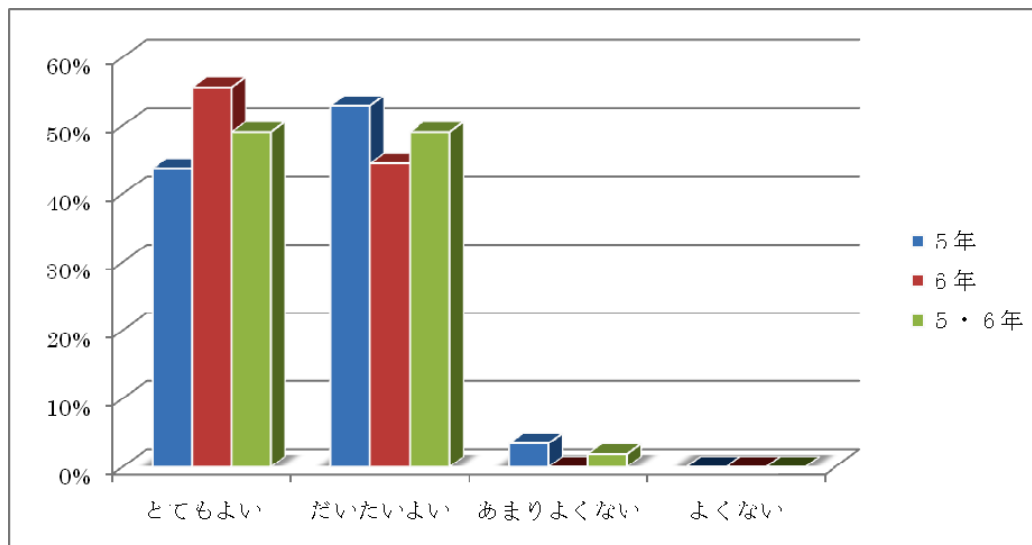
1 保護者アンケートの結果

実施日：20年11月14日

在籍数：5年（99人） 6年（104人）

回答数：5年（89人） 6年（72人）

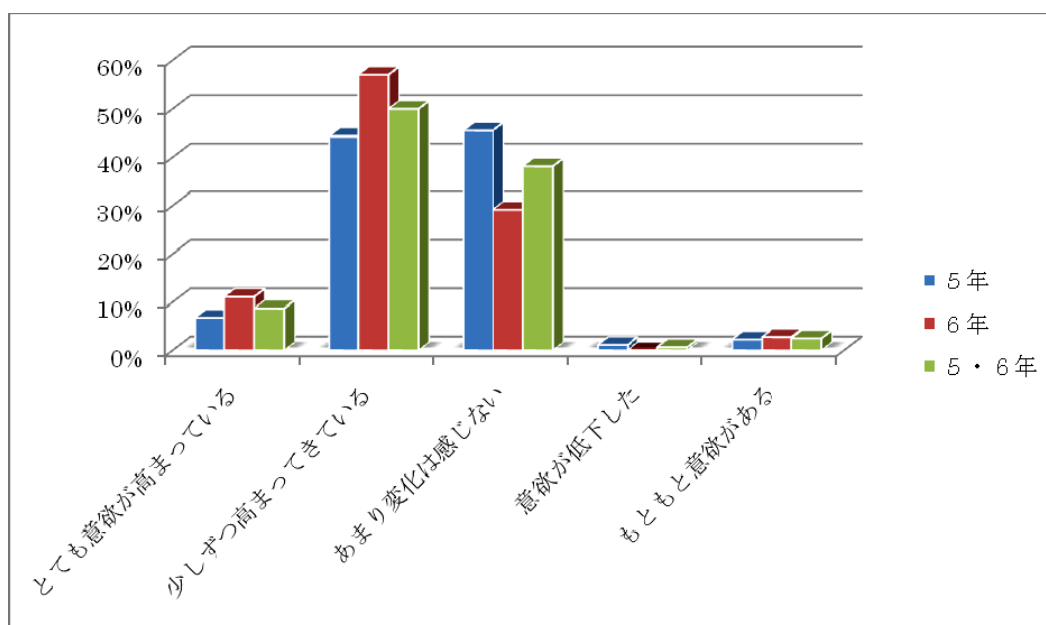
質問1 教科担任制の授業についてどのようにお考えですか。(一つ選択)



* 選択した項目についての理由や意見

- 複数の先生に教えていただくことで子どもの学習意欲が高くなってきたと思う。
- 実際に授業を見て、子どもたちが生き生きとしている様子が見られた。
- 先生の得意分野を担当して教えてくださっているのか、子どもが「分かりやすい」と喜んでいる子どもがとてもよいと言っていた。
- 教科ごとに先生が替わることで子どもはよい緊張感をもつ。苦手だと思っていた教科も先生によって克服できる。刺激があつてよい。
- 中学になれば教科担任制になるので、その準備としても先生が替わるということは、子どもたちも慣れやすくつよいと思う。
- 子どもにとつても多くの先生とふれ合うことにより意欲が増し、先生方にとっては高学年の授業などでより深い知識が必要となり準備などもあることからよいのではないかと思います。子どもを様々な面から見つめてもらい、励ましてもらえているように思います。
- 複数の教師がいろいろな角度から子どもを見てくれることはよいが、担任との連絡・連携が上手くとれているのか心配である。
- 教科担任制そのものについては期待できるものも多いと思いますが、5年生という学年にはまし早いような感じがする。例えば、体調など一日の子どもの様子の変化を把握することが難しくならないものかと少々不安に思う。

質問2 お子さんの学習意欲についてお感じになることはありますか。(一つ)

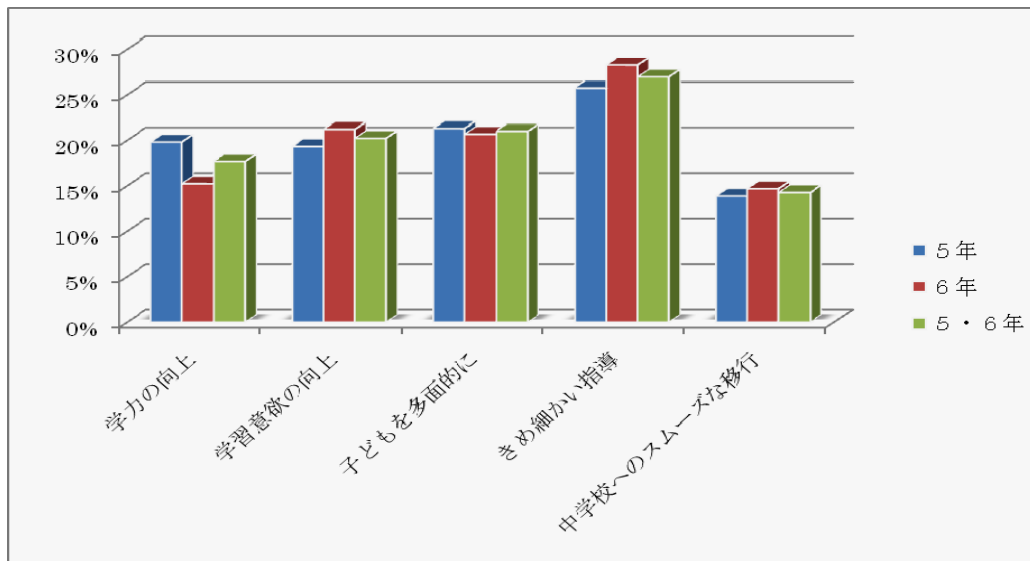


Ⅲ モデル校の取組 3 宮城野小学校

* 選択した項目についての理由や意見

- 自主勉強をするときが多くなった。
- 子ども自身が「少しずつ意欲が高かまってきている」と言っている。
- 教科によって先生が違う授業が楽しく受けられている様子です。
- 教科担任制だと先生方の専門知識が聞けたり学べたりして、子どもの学習意欲が高まってきたように感じます。
- たくさんの先生方に励ましてもらい、先生方の様々な意見を聞くことにより、知識が広がり深まっているのではないかと感じます。
- 教科によって学習意欲が違う。苦手な教科はまだまだだが、得意な教科に対する積極性は出てきていると感じる。
- 教科担任制になって学力が向上しているかわからないが、毎日の家庭学習に意欲を感じない。
- 担任ではないので、その教科の先生に慣れるまで時間がかかり、質問ができないとか、その先生の好き嫌いが出てきたりしている。

質問3 教科担任制に期待することは何ですか。(複数回答)



* 選択した項目についての理由や意見

- 偏った指導ではなく、多面的な学習指導が期待できる。
- 学力や得点の向上を目標にするのではなく、意欲をもって取り組んだり、考えることを習慣化できたりしたらよいと思います。
- 複数の先生に接していただき、よい所、悪い所をそれぞれに感じていただき、指導していただきたいと思います。
- より細かな部分（意欲面、どこでつまづいているか、努力している点など）を見てくれればと思う。テスト、プリント、提出物や作品で評価しては教科担任制の意義が薄れると思う。
- 先生が一人より複数の方が子どもは質問しやすく、学力が向上するのではないかと思います。
- 算数・国語に力を入れてほしい。
- 少人数指導については子どもも質問しやすい等、とても利点があり感謝しています。
- 少人数指導のように根気よくわかるまで指導していただきたいと思います。

【分析結果】

教科担任制について、概ねよい評価を得た。学力向上だけでなく、多くの教師とかかわることで視野を広げ、豊かな人間性を育てたいという願いをもっていることもわかった。半日授業参観等のときに教科担任制の授業を参観したことや、学力テストの結果が2年連続で向上していることから、よさを実感できるようになってきたものと思われる。

一方で、学級担任が十分に児童を理解して指導する時間が足りないことからくる不安を感じている保護者も多く、見過ごすことができない問題である。学級担任が自分のクラスにかかわる時間を増やす工夫や、事故や生徒指導上の問題が起きたときの柔軟な対応について予め検討すると同時に、「学年担任」として担当者全員が共通理解をもって指導にあたっていることを知らせ、不安を減らすことも大事であると考えられる。

2 教師の自己評価

高学年の担当者8名を対象に、自己評価のアンケートを実施した。

(A：よくできた B：できた C：要改善)

教科担任制実施後の評価項目		A	B	C
計画・立案	①昨年度までの成果と課題を踏まえて、学校の実態に即した体制づくりができた。	4	ア4	0
	②教師の専門性や得意分野を生かすことができた。	1	▼イ6	1
	③教職員全体（担当者）の共通理解が図れた。	3	5	0
	④児童や家庭への連絡はきちんとなされた。 (懇談会、家庭 問、学校だより、学年だより等)	3	5	0
実施	①学習面の指導力が向上し、児童の興味・関心が高まり、学力の向上につながった。	4	4	0
	②日常、担任や担当者間で情報交換を十分に行っているか。 (子どもの様子、学習の進度や指導内容・方法等)	6	2	0
	③共通理解のもと、「学年担任」という意識で協力して指導しているか。	7	1	0
	④出張・行事等による時間割変更の連絡を取り合い、柔軟に対応しているか。	3	5	0
	成績・評価についての情報交換を十分に行い、 切に評価しているか。	5	3	0
成果	① 教材研究や授業改善をしながら 実した指導がなされたか。 (自分の担当教科について)	2	5	▼1
	②専門性に立つ指導で、子どもに学習への関心・意欲をもたせることができたか。(自分の担当教科について)	1	5	▼2
	③他の担当者の様子から、教科担任制のよさを感じることができるか。(学習指導全 をみて)	4	4	0
	④子どもの学力が向上しているか。(学習指導全 をみて)	3	5	0
	生徒指導上の効果がみられたか。 (担当者全員で問題行動の指導にあたる、時間を有効に使って生徒指導にあたるなど)	2	▼キ6	0
	的な学級経 にならないように教科担任制のよさを生かすことができたか。	ク5	3	0

* 自由記

- ・ 国語、算数を担任が担当することにより、自分のクラスにいる時間が昨年より増えた。そのため、自分のクラスの児童一人一人の様子をより細かく見ることができた。
- ・ 時間割の変更はやはり大変だった。
- ・ 教科担任制のよさと欠点についてあらためて考えた1年だった。共通理解がすべてという感じだ。
- ・ 学級の問題に時間をかけて指導することが難しいが、学年の先生方の柔軟な対応により解決することができた。学年内の連絡が密にとれていてよかった。
- ・ 自分の好きな教科を見つけ出し、意欲的に取り組み、自信をつけた子が多い。算数では、少人数を組み合わせることで、特に下位群の児童に自信をつけさせ、理解を深めることができた。
- ・ 時間割を工夫したため、3年間のうちで一 しっかりと運 できた。
- ・ 多くの教師の目で見ってもらうことにより、学年で連携して生徒指導ができた。
- ・ 3年をかけて行き着いたのが今年の形。本当の効果があり、学級担任が かつているのが、専科とTT(または少人数)の 配である。担当教科が多くなると 担の方が多くなるので、専科・TTと、学級担任による交換授業はそれぞれ1教科で十分だと思う。
- ・ 3年間である程度の成果を得たが、時間が経てば経つだけ、全職員の共通理解は難しくなるというのが実感だ。チームで指導することが大きな効果をもたらす教科担任制では、職員の共通理解を得ることが不可欠。時間割の調整や特別教室の使用割り当て、進度の確認などコーディネーターの役割も必要であると思う。

【分析結果】

ア・ク 時間割を工夫し、学級担任が自分のクラスにいられる時間を増やしたこと、国語・算数を学級担任が指導するようにしたことなどの改善点がある程度評価している。教科担任制のよさを認めながらも、学級作りや、時間割の調整の困難さ、学級担任としての思いを十分に実 できないもどかしさなどから評価は分かれている。

・ ▼キ 教科担任として学年のすべての児童と日々かかわっていることから、日常的に児童や授業の進め方などについて情報交換を行うようになった。進 談や問題行動が起きたときには、「学年担任」として担当者全員で指導にあたることができるよさがある反面、学級担任としては、児童理解・学級作りに思うように時間がとれないことが問題となっている。

▼イ・▼ 教科指導の専門性を問われると厳しいものがあるが、教科を担当する責任から教材や指導法を工夫している様子が見える。

▼ 教科担任としての専門性を上げる ためには教材研究の時間の確保も 要だが、空き時間のほとんどを算数の少人数指導や特別支援（個別取り出し指導）にあてていることもあり、教材研究のための時間を十分に確保しているとはいえない。なるべく自分のクラスの指導をしたいという学級担任の思いもあり、国語は学級担任が指導し、算数も学級担任がT1、教科担任がT2を務める形で指導の成果を上げている。学年の担当者全員が算数の指導をしていることから、算数については全員で教材研究を行うことが多い。教科担任としての専門性か、学級担任として子どもの全体像をとらえて指導の効果を上げるのか、何を目指すのかが問われるところだと考える。

3 教科担任担当教員割り当て表

	国語	書	会	算数	理科	楽	図工	家庭	体育	道	特活	総合
5 1				木				土屋				土屋
5 2												土屋
5 3	木	木		土屋					木	木	木	木 土屋
1	木	土屋		木				土屋	木	木	木	木 土屋
2												土屋
3												土屋

* 土屋担当の総合は、英語活動を中心とした国際理解。
5年生は通年週1時間。6年生は2学期後半に10時

3時間分の交換授業と考えた基本形

6 1 会 (研究主任)

6 2 理科

6 3 楽か家庭科

* 木 (6学年主任) は教材研究・学年事務など

6 1 理科

6 2 算数 木 (教科担任)
(学級担任)

* 2組の 楽・家庭は別のコマで。

6 3 会

6 1 算数 木 (学級担任・教科担任)
(研究主任)

交換授業のローテーション以外の時間にとる。

6 1 楽か家庭

6 2 会

6 3 算数 木 (教科担任)
(学級担任)

* 3組の理科は別のコマでとる。